

平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社免疫生物研究所
 コード番号 4570 URL <http://www.ibl-japan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役事業統括推進本部長
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(氏名) 清藤 勉
 (氏名) 中川 正人

TEL 0274-22-2889

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	271	△4.9	△109	—	△106	—	△39	—
27年3月期第2四半期	285	16.3	△114	—	△83	—	△81	—

(注)包括利益 28年3月期第2四半期 △39百万円 (—%) 27年3月期第2四半期 △81百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	△6.05	—
27年3月期第2四半期	△12.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
28年3月期第2四半期	2,987		2,572		86.1	
27年3月期	3,138		2,619		83.2	

(参考)自己資本 28年3月期第2四半期 2,572百万円 27年3月期 2,612百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	730	0.1	△115	—	△120	—	△55	—	△8.40

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注)当社の業績予想は、「中期経営計画」をベースに作成しており、その達成(施策等)においては、年間を通して評価を行っております。そのため、業績予想は通期業績予想値のみを開示いたしました。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	6,547,590 株	27年3月期	6,547,590 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	1,130 株	27年3月期	1,090 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	6,546,489 株	27年3月期2Q	6,547,400 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

※当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成27年11月19日(木)・・・・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における、当社グループのセグメント別の業績は、下記のとおりとなりました。

・診断・試薬事業

研究用関連においては、主力のEIA測定キットや抗体の自社製品の販売は、順調に推移しているものの受託サービスの売上が伸び悩んでおります。また、第1四半期におけるタカラバイオ株式会社からの在庫買戻しによる返品処理の影響により、売上が減少いたしました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は145,692千円（前年同期比15.1%減）となりました。

医薬用関連においては、自社製造の動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キットやマイコプラズマ感染症の診断薬原料の販売が、順調に推移し売上高が増加いたしました。その結果、売上高は56,346千円（前年同期比21.5%増）となりました。なお、当事業では、新規治療薬シーズの研究開発や体外診断用医薬品に向けた製品開発を進めており、ラテックス凝集法を用いた「LPL ラテックス-IBL」を開発し、体外診断用医薬品として国内での製造販売認証を取得いたしました（平成27年9月16日公表）。

その結果、研究用関連、医薬用関連を合わせた当セグメントの売上高は202,039千円（前年同期比7.3%減）、営業利益は16,428千円（前年同期は33,247千円の営業損失）となりました。

・遺伝子組換えカイコ事業

大手動物用医薬品企業との共同研究による動物医薬品候補タンパク質の売上が順調に計上されましたが、大手体外診断用医薬品企業からの抗体受託サービスの売上が、第3四半期以降の計上予定となりました。その結果、当セグメントの売上高は15,250千円（前年同期比10.0%増）、営業損失は84,106千円（前年同期は37,369千円の営業損失）となりました。なお、当セグメントにおいては、将来に向けた重点的な研究開発等を積極的に進めるために、医薬品原料の生産拠点及び付属設備への投資を行い、生産体制の構築を進めてまいります。なお、アステラス製薬株式会社と進めているフィブリノゲンの共同研究は、継続して進行しており、医薬品原料として生産するためのGMP対応を踏まえたパイロットプラントの建設を開始しております。また、平成27年8月31日「遺伝子組換えカイコによるラミニン511-E8生産の成功とiPS細胞等培養用試薬としての実用化に向けた取り組みのお知らせ」のとおり、iPS細胞等の培養足場材として有効であるヒトラミニン511-E8フラグメント（ラミニン511-E8）を遺伝子組換えカイコを用いて生産することに成功し、ラミニン511-E8を安価に製造する方法を確立しました。当社は、ラミニン511-E8の独占的販売権を有する株式会社ニッピと研究用試薬の販売へ向け、協議を進めております。

・検査事業

当事業の主力である、ゲルろ過HPLC法を応用したシステムにより、血中リポタンパク質分画の詳細プロファイリングデータを解析する受託サービス（Lipo SEARCH）においては、国内・海外からの引き合いは新規の治験関連大型案件を含め増加の兆しが見え始めておりますが、販売の回復までには至っておりません。非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）関連研究・開発向けに、9月より案内を開始した血中遊離コリン測定サービスは、おもに製薬企業から順調に引き合いを得ています。また、動物病院におけるコンパニオン・アニマルの診断支援サービス（Lipo TEST）は、同市場において競合サービスとの競争等で、受注が伸び悩みました。その結果、当セグメントの売上高は47,859千円（前年同期比7.9%減）、営業損失は17,923千円（前年同期は19,273千円の営業損失）となりました。

・化粧品関連事業

当社グループが販売する、化粧品原料「ネオシルク[®]-ヒトコラーゲンI」配合化粧品「フレヴァン」の知名度アップを図るため、重点的に広告活動を展開しております。このため現段階では販売費の負担が大きくなっております。ただ、その成果は会員数の順調な増加として表れております。一方、リピート率の向上が重要と考えておりますが、現状では当初の予想を大幅に下回っている状況となっております。そのため、今後は安定した売上高の増加を図るため、より一層、継続ユーザーの獲得に注力してまいります。その結果、当セグメントの売上高は6,673千円（前年同期比335.3%増）、営業損失は24,387千円（前年同期は25,927千円の営業損失）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、271,046千円（前年同期比4.9%減）となりました。利益面においては、診断・試薬事業において販売契約変更等で収益性が向上しておりますが、遺伝子組換えカイコ事業の研究開発や前橋研究所関連費用が増加しております。一方、公益財団法人あきた企業活性化センターより研究成果に対する助成金3,285千円を営業外収益に計上してしております。これらにより、営業損失が109,509千円（前年同期は114,197千円の営業損失）、経常損失が106,317千円（前年同期は83,962千円の経常損失）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失におきましては、投資有価証券売却益の計上（平成27年5月1日発表の「投資有価証券売却益（特別利益）の計上に関するお知らせ」参照）により39,631千円（前年同期は81,825千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(財政状態に関する分析)

・資産

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比4.8%減の2,987,307千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

「現金及び預金」につきましては親会社株主に帰属する四半期純損失39,631千円を計上したものの売上債権の回収や投資有価証券の売却等により22,748千円の増加となっております。また、前橋研究所の新設に伴い発生した支出を建設仮勘定として有形固定資産の「その他」に計上したこと等により同科目が44,578千円の増加となっております。一方、「受取手形及び売掛金」につきましては前連結会計年度の第4四半期連結会計期間に比べ売上の計上が減少したこと等から118,461千円の減少となっております。また、投資有価証券につきましては有価証券の売却により100,800千円減少となっております。

・負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末比20.0%減の414,971千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

タカラバイオ株式会社からの返品の実現に伴い「返品調整引当金」が38,738千円の減少及び一年内返済予定長期借入金を含めた「長期借入金」が約定弁済により53,364千円の減少となっております。

・純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比1.8%減の2,572,336千円となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は前連結会計年度末と比べ4,245千円減少し1,227,964千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により支出した資金は17,557千円（前年同期比14,795千円の支出増）となりました。

この主な要因は、非資金項目である減価償却費の計上が36,201千円、売上債権の回収118,461千円等といった資金増加要因がありましたが、その一方、資金減少要因として、事業活動が低調たつたことにより税金等調整前四半期純損失を36,751千円計上したこと、税金等調整前四半期純損失に含まれる投資有価証券売却益69,566千円を投資活動によるキャッシュ・フローに属すもののため控除したこと、タカラバイオ株式会社からの返品による返品調整引当金の減少38,738千円等が主な要因であります。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により獲得した資金は74,033千円（前年同期比254,432千円の獲得の増加）となりました。

この主な要因は、前橋研究所の新設に伴い発生した支出等により有形固定資産の取得による支出が60,916千円ありましたが、投資有価証券の売却による収入が170,366千円あったこと等によるものであります。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金は60,983千円（前年同期比265,958千円の支出の増加）となりました。

この主な要因は、長期借入金の返済による支出が53,364千円あったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成27年5月13日に公表いたしました平成28年3月期通期連結業績予想を修正いたしております。

なお、詳細につきましては、本日開示の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額
を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更い
たしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定
による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方
法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更
を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、
四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び
事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点
から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額ははありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,284,342	1,307,090
受取手形及び売掛金	248,943	130,482
商品及び製品	54,543	61,447
仕掛品	122,942	121,467
原材料及び貯蔵品	89,654	93,019
その他	25,917	33,373
流動資産合計	1,826,344	1,746,881
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	474,760	459,833
機械装置及び運搬具(純額)	17,591	15,897
土地	362,687	362,687
その他(純額)	80,566	125,144
有形固定資産合計	935,606	963,563
無形固定資産		
のれん	165,920	161,374
その他	26,013	24,829
無形固定資産合計	191,934	186,204
投資その他の資産		
投資有価証券	121,482	20,682
その他	62,672	69,976
投資その他の資産合計	184,154	90,658
固定資産合計	1,311,695	1,240,425
資産合計	3,138,040	2,987,307
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,898	10,521
1年内返済予定の長期借入金	102,368	89,048
返品調整引当金	38,738	-
その他	87,475	70,082
流動負債合計	233,480	169,652
固定負債		
長期借入金	283,220	243,176
その他	1,773	2,142
固定負債合計	284,993	245,318
負債合計	518,473	414,971
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,846,099	1,846,099
資本剰余金	878,479	878,479
利益剰余金	△110,621	△150,252
自己株式	△1,942	△1,990
株主資本合計	2,612,015	2,572,336
新株予約権	7,551	-
純資産合計	2,619,566	2,572,336
負債純資産合計	3,138,040	2,987,307

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	285,046	271,046
売上原価	151,725	101,481
売上総利益	133,320	169,564
販売費及び一般管理費	247,518	279,073
営業損失(△)	△114,197	△109,509
営業外収益		
受取利息	3,061	140
助成金収入	15,000	3,285
為替差益	4,481	—
受取補償金	7,690	—
その他	1,078	1,002
営業外収益合計	31,311	4,427
営業外費用		
支払利息	1,072	1,097
為替差損	—	138
その他	4	—
営業外費用合計	1,076	1,235
経常損失(△)	△83,962	△106,317
特別利益		
投資有価証券売却益	—	69,566
特別利益合計	—	69,566
特別損失		
固定資産除却損	85	—
特別損失合計	85	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△84,047	△36,751
法人税、住民税及び事業税	2,756	2,880
法人税等合計	2,756	2,880
四半期純損失(△)	△86,804	△39,631
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,978	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△81,825	△39,631

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純損失(△)	△86,804	△39,631
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,418	—
その他の包括利益合計	5,418	—
四半期包括利益	△81,386	△39,631
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△76,407	△39,631
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,978	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△84,047	△36,751
減価償却費	46,039	36,201
のれん償却額	6,172	4,545
受取利息及び受取配当金	△3,061	△140
支払利息	1,072	1,097
為替差損益(△は益)	△4,523	604
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△69,566
売上債権の増減額(△は増加)	42,702	118,461
たな卸資産の増減額(△は増加)	705	△8,793
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,426	5,623
返品調整引当金の増減額(△は減少)	—	△38,738
その他	△3,872	△27,518
小計	△3,238	△14,974
利息及び配当金の受取額	3,132	125
利息の支払額	△1,115	△1,076
法人税等の支払額	△1,540	△1,632
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,762	△17,557
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	△9,000	△33,860
有形固定資産の取得による支出	△31,474	△60,916
無形固定資産の取得による支出	△1,517	△1,231
投資有価証券の売却による収入	—	170,366
投資有価証券の取得による支出	△100,800	—
関係会社貸付けによる支出	△40,000	—
貸付金の回収による収入	2,367	—
その他	25	△324
投資活動によるキャッシュ・フロー	△180,398	74,033
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△94,983	△53,364
新株予約権の買入消却による支出	—	△7,551
その他	△41	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー	204,975	△60,983
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,523	261
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	26,337	△4,245
現金及び現金同等物の期首残高	1,135,786	1,232,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,162,124	1,227,964

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。